

京の大人の英知、注入マガジン

京都CF

[シー・エフ]

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手でお送りいただければ、到着し次第ご送付いたします。ホームページからもお申し込み頂けます。

No.262

2005.10月号



特集
やっぱり来た。
今、注目のチルアウトエリア!!
「続・上河原町」

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.261

2005.9月号



特集
ウチら、平成居酒屋

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.260

2005.8月号



特集
先斗町、ウエストサイドの、舞台裏
裏床・先斗町

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.259

2005.7月号



特集
I♡お肉

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

年間定額購読

1年間分の「京都CF」を銀行引き落としにて、4,200円(内、消費税200円)で予約購読していただけます。お電話もしくは巻末ハガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

フェイム事務局

〒604-8134 京都市中京区六角通堀丸東入ル 大舞六ビル2F
TEL. 075-256-7558 FAX. 075-256-7557

ホームページからもお申し込み頂けます。

<http://www.kyotocf.com>

こっそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。



金網職人

廣瀬正樹

HIROSE MASAKI

【プロフィール】'99年より金網を使った帽子製造をスタート。'00年にはテレビ朝日「ターニングポイント」に7回出演。'04年10月、京都市推薦のもと「新風館」にて露店を構える。今年9月1日より、念願の個人店をオープンしたばかり。

京TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 123th person

「It's old but new」を信じて どこにもないモノをつくり出す



廣瀬氏イチオシは「ベルト」8000円～なのに、なぜかダントツの人気を誇るは2連タイプの「プレスレット」1900円。もちろん自身も身につけていて、現在7代目だが、「ストラップ」は小900円、大1100円



どれも欠かせない道具だが、中でも注目は電気ペン。これを使って、プレスレットやストラップに希望の名前やメッセージを、無料に入れてくれるのだ。自分の名前が入ると途端にトクベツ感が増すからホント不思議



この秋オープンした「M-HERO」では、たくさんの新商品・新生地に出会える。代表作とも言えるハンチングやチンガロンはもちろん、ヘアアイテムやベアードールなども、売店で使われる金網は全て高障で織られたもの

information

M-HERO

■京都市中京区六角通堀丸西入ル北側
☎075-213-4440
●00:00～00:00 / 日・祝日休
<http://www.m-hero.jp>

「金網織子の帯締めながら花嫁御寮は…」と言う唄からも判るように、金糸や金箔を織り込んで模様を頭わした「金網」は、数ある織物の中でも最高の位を持つ布地。そんな金網と廣瀬さんが出会ったのは、彼がまだトラックの運転手をしていた時のこと。29歳のある日、配達集荷先の西陣にて外国人が金網を眺めていた。その外国人が被っていたキャップと、人物越しに見えた金網がびたりハマっていて、トラックでごはんを食べながら「こんな帽子が欲しい!」と閃いた。

何でも手に入る世の中で、欲しい!と思うものがなかった。だからつくった。それだけのことだと、廣瀬さんは笑う。「帽子×金網」に出会った瞬間、「これでごはんを食べていこう」と決意。6年前に梅小路公園で開催される市に出店したのを皮切りに、3年前から毎月天神さんで行商し、遂に自分の店を持つまでに。「30までにコレ!」という道を見つけたかった」のは、尊敬する坂本龍馬が33歳で亡くなったことに関係がある。「あれだけの偉業を成し得た人が33で死んだ。もし自分も33で死ぬと仮定したら、石の上にも3年という言葉から考えて、30までに道を見つけようと思った。ま、もう龍馬の年を追い越してしまったけどね(笑)」。そして、5年前に出演したテレビ番組「ターニングポイント」で出会った山本寛斎氏の「(願ひ事が書けるストラップを見て)これが売れたら億万長者になれるよ」の言葉がまさにターニングポイントに。ドンッと背中を押された瞬間だった。億万長者は近い?と訊ねれば、無言でニヤリ。

しかし店を構えるまでには、苦労もあったのでは?と問えば、「苦しい労働って全くしたことない。どんなことでもイミのある労働やと思うから」と、目からウロコのような答え。最初から確固たる自信があった。何かの力に導かれているような人やモノとの出会いに絶大なる信頼を置いていた。だからチャンスが訪れたときに、いつでも身軽に動ける自分であるため、サラリーマンにはならずこまで来た。その頃を振り返り「ほんまに苦しかったけど」苦笑。その自信ある作品に使う金網は、=着物のイメージが強い。だが、あくまでも着物は「着る物」。デニムなどと一緒だからこそ、50年先でもいいから、金網という布地が「着物に使われてたの?」と言われてもらえるよう、金網の個性を表現したいと願う。だからこそ、廣瀬さんの生み出す作品は、「It's old but new」そのもの。